

令和6年度

不登校対策に係る 取組事例 県立学校版

不登校対策に係る取組事例

岩手県立千厩高等学校
岩手県立北桜高等学校



取組事例から学ぶ

不登校対策に係る取組のポイント

- ★ 学校が安全・安心な居場所となる「魅力ある学校づくり」を進めること
- 1 個に応じた「分かりやすい」学習指導の充実を図ること
- 2 児童生徒のSOSを受け止める教職員の力の向上を図ること
- 3 学級担任や教育相談コーディネーター、養護教諭、SC、SSW等とが連携し、多角的・多面的な児童生徒理解を可能とする教育相談体制を築くこと
- 4 校内教育支援センター等で、安心して過ごせるようにすること
- 5 オンラインやICTを適切に活用し、教育機会の提供や客観的な児童生徒の状況把握を進めること
- 6 校種を越えての情報連携を丁寧に進めること



岩手県教育委員会

岩手県立千厩高等学校

居心地のよい学校・ちょうどいい学校・ユーモアと笑いのある学校

概要

1 本校の試み

本校は、長期に及ぶ不登校生徒がいない。この状態を続けるために「生徒が意欲を持ち毎日登校できる」を目標に、不登校につながる小さな変化も見逃さないよう、問題を抱える生徒は全体で見守り支援する体制で取り組んでいる。具体的には、関係分掌間の連携体制を構築し、必要に応じた外部機関との連携が挙げられる。加えて、「ユーモアある学校づくり」を基盤に、生徒が登校意欲を高める実践に取り組んでいる。

2 取組事例 以下について日常的、かつ徹底して取り組んだ。

(1) 「記録様式」にまとめスピード感を持ってチーム（組織）として即対応

欠席が続く生徒の保護者からの相談を受け付けたり、家庭訪問をしたりした際は「記録様式」にまとめ、当該正副担任・学年主任・関係分掌を経由し、校長まで回覧している。現状把握と協議を繰り返し、経過を確認しながら、関係職員全員がスピード感を持って、生徒支援と職員の連携にチーム（組織）として対応している。

(2) 教育相談課会で生徒個人に関する情報交換と全職員への周知

教育相談課会を月一回実施している。該当生徒の担任は、事前に定められた様式に必要事項を入力し、対応を協議している。必要に応じ外部機関（福祉・医療等）と連携し対応することもある。定例職員会議前の「生徒情報交換会」で入力内容を全職員へ周知し、統一した対応で生徒の支援にあたっている。様式には過去3か月間の様子が記載されるため経過を確認できる。

(3) 笑いとユーモアは生徒を前向きにさせ一体感を醸成する

校長の学校経営方針の一つとして「ユーモアと笑い」を大切にすることを呼びかけている。ユーモアや笑いは、様々な問題解決につながると、校長が常々生徒に伝えている。実践例としては、文化祭で「S1グランプリ」を開催し、千高お笑いコンテストを行った。また、千厩地区まちづくり協議会と連携し、「岩手県住みます芸人」アンダーエイジくまがいとよこっちピーマンを招き、笑い進路指導を兼ねた講演会も実施した。さらに、クリスマス企画として総探プログラム協力委員（地域サポーター）によるキッチンカー販売と吹奏楽部が演奏会を実施した。生徒は家族への土産を買い求めるなど、楽しい時間を共有した。



(1) 生徒情報の共有が定着し問題の拡大化を未然に防ぎ、不登校対策のほかいじめ防止にもなっている。

(2) 全職員が困難や課題を抱える生徒を把握し、それぞれの立場で適切に対応し、不登校を防いでいる。

(3) 生徒は、笑いが生み出す一体感を抱くことができた。学校の一体感が登校意欲を喚起している。

課題

取り組んだ活動をさらに発展させ、実効性を高めたい。

岩手県立北桜高等学校

統合初年度における教育相談体制の構築

概要

北桜高等学校の教育相談体制

工業科



工業校舎(工業科)

3名体制+SC(私費)
(教諭2名、養護教諭1名)
教育相談主担当(1)
特別支援教育主担当(1)
保健室担当(1)

SC 業務

- ・1 学年全員面談実施
- ・カウンセリング
- ・校内研修
- ・教職員との連携

総合学科



総合校舎(総合学科)

4 名体制+SC(私費)
(教諭3名、養護教諭1名)
教育相談主担当(1)
特別支援教育主担当(1)
保健室担当(1)

SC 業務

- ・心理検査によるアセスメント
- ・カウンセリング
- ・教職員との連携

不登校対策に係る取組

本校では、「生徒一人ひとりの人格、人権を尊重し、生徒が安心して学校生活を送れる環境をつくること」を全教職員等が共有し、不登校になる前の「0次支援」を意識した教育活動を実践している。年4回実施する「学校生活等に関するアンケート(生徒及び保護者)」、GWや大きな行事毎に実施する簡易アンケート及び心理検査によるアセスメントを通して、学校生活の不安や悩み等、生徒一人ひとりの状況把握に努めている。また、欠席が3日以上続いた生徒に対しては、様子見をせず家庭訪問を行っている。不登校が発生した場合は、特別支援教育委員による支援会議を実施して情報を共有するとともに、今後の支援方法や学習支援体制等についても話し合いを行うなど、教育相談担当が中心となって、組織として対応している。

成果

統合は職員に大きな負担となる部分が多く、また地域から学校が減るということはネガティブな側面がある。しかし、実際に統合し半年の経過を見ると、1年生を中心に学校の活気が増し、高校にはある程度の規模や違う文化が交流する必要があると感じる場面が多々ある。状況に応じて両校舎共同で取り組むことで問題解決が可能となるケースも多々あることから、生徒指導上の諸課題について情報共有を深めていきたい。

課題

本校は校舎制であるため、統合1年目の今年度については、これまでの各校舎の文化を継承しており、教育相談の観点から新たに大きな問題が生じているという状況はない。この実態から、同一の学校であっても、それぞれの校舎の特性に応じた指導体制の構築が必要であると考ええる。